

令和 6 年度第 1 回協議会での指摘と対応方針について

資料 2：現況分析結果について

No.	委員名等	内容		対応方針	備考
1	南山大学 石川教授 (委員会)	全般	調査が 2022 年秋から冬にかけての実施ということは、コロナの影響はこの時期まで及んでいた可能性もある。経年で 2019-2024 年の推移をみてコロナの影響がどの程度ありそうか確認できないか。	- 公共交通の利用実績データよりコロナ禍の影響を確認 - 本体調査より、コロナの影響による影響の有無を確認	補足資料 1 P1～7
2	埼玉大学 久保田教授 国土交通省 中部地方整備局 浜松河川国道事務所 (委員会)	道路混雑 の状況	渋滞している道路区間が増えているように見える。この状況についてはどのように考えているか。	センサスの調査手法による影響、高齢化による影響など、既存調査での整理を追加	補足資料 1 P10～11
3	国土交通省 国土技術政策総合研究所 都市研究部 (委員会)	テレワーク等導入 状況	テレワークの導入状況で、域外資本・地元資本の比較を行っており、週 1 回以上かどうかで分けられているが、さらに詳細な頻度を把握することはできないか。	調査票では、週 1 回より細かな区分では調査していない	
5	静岡県 袋井土木事務所 (幹事会)	平日トリップ数の 推移	「平日トリップ数の推移」について、近場の移動量が減り、遠いところの移動量は変わらないという結果が出ているが、この理由について分析できていることを教えてほしい。	所要時間ランク別トリップ数について、目的の変化を確認するとともに、オンラインとの関係性について考察	補足資料 1 P13
6	菊川市 建設経済部 都市計画課 (幹事会)	平日トリップ数の 推移	自動車と公共交通が減少傾向の中で長時間のトリップ数に変化があまりなかったという結果は、特性があるように感じた。この結果から、広域ネットワークの整備が大事なのか、結節点へのアクセス性向上が重要なかがわかる気がする	長時間トリップについて、目的や利用手段などの特徴を整理	補足資料 1 P14

資料3：推計モデルについて

No.	委員名等	内容		対応方針	備考
4	南山大学 石川教授 (委員会)	趨勢分析 の設定	趨勢分析の設定ではネットショッピングの利用状況を現状の水準で考えているが、このような設定は現実的ではないのではないか。	- 将来ビジョン分析でネットショッピングの普及状況を反映させる方法を検討 - 家計消費動向調査等の既存調査を踏まえ検討するが、今後の推移が不確実な部分もあり、現状維持とすることも考えられる	補足資料1 P5
5	南山大学 石川教授 (委員会)	ABM の 概要	交通量配分では貨物車のデータを入れているということだが、ネットショッピングが増えて貨物車交通量が増加しているという因果関係もありえると思うが、どのように考えているか。	- 現況配分では貨物車を最新のセンサスの OD データで補完することで対応済み - 将来の貨物車交通量は、自動車燃料消費量調査の車種別の変化率を用いて設定することで、近年のトレンドを反映した	資料3 P7

資料４：基本方針（案）について

No.	委員名等	内容		対応方針	備考
6	天竜浜名湖鉄道株式会社	理念	観光は地方創生のキーワード。観光で生かしていける場所は、そのような視点で評価してもらいたい。	・ 理念もしくは基本方針にて記載方法を検討	資料３で更新
7	南山大学 石川教授	基本方針	外出率・トリップ数が低下するなか、高齢女性の車移動が増加する将来にて考えるべきは、安全な交通社会なのではないかと思う。公共交通を維持しないとみんなの安全は維持できないのではないかな。	・ 安全に移動するためのインフラ整備の視点について、持続性を支える基本方針にて反映方法を検討	資料３で更新
8	国土交通省 国土技術政策総合研究所 都市研究部	基本方針	グリーンスローモビリティのように、会話を楽しみながらまちを楽しむような、移動そのものに付加価値がある移動のあり方も考えられるため、基本方針にそういうニュアンスがあってもいいのではないかな。	・ 価値創造を支える基本方針にて、反映方法を検討	資料３で更新
9	埼玉大学 久保田教授	全般	公共交通の維持が困難となってきたという全体の大問題が見えないような資料になっているのが気になる。路線バスやコミュニティバスが維持できず、基幹公共交通軸がワゴン車になったりする現状を扱わなくて良いのか。	・ 地域交通に関する課題や将来分析を踏まえ、限られた人材の中で取り組むという視点を追加	資料３で更新

追加分析

① コロナ禍が調査結果に与えた影響分析

1. 公共交通の利用実績データから調査時点におけるコロナ禍の影響を確認
2. 個人票データから、コロナの影響により自宅で仕事又はオンライン授業を実施した人の数を確認
3. コロナ後のネットショッピングの利用動向の推移について、家計消費状況調査から整理
4. コロナの影響を差し引いた評価を行うため、第5回調査実施時点の生活様式について整理

② 協議会での指摘を踏まえた追加分析

5. 道路混雑状況の要因の整理
6. オンラインとの関係性を踏まえたトリップ分析
7. 広域トリップが増加していることについて、長時間トリップの目的種類構成と通勤トリップ OD の変化を確認
⇒代表交通手段を鉄道に絞ったものの確認については、サンプル数が少ないために有意な分析結果を得ることができなかった。